

平成24年度「重点研究費」研究成果報告書

研究課題	人間関係を構築する教育にむけて「沐浴用赤ちゃん人形」の導入の効果に関する研究
------	--

研究代表者

氏名 鈴木琴子	所属 養護教育講座	職名 講師
------------	--------------	----------

研究分担者

氏名 宇賀神佳子	所属 国分寺市立第十小学校	職名 校長
根本節子	国分寺市立第十小学校	主幹養護教諭

【研究成果の概要】 (文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字程度)

現代の子どもたちは、ゲームやインターネットの普及により、他人と交流しながら遊ぶといった体験が少ないという状況にあるため、小学生に母親学級などで沐浴の演習に使用される赤ちゃん人形を中心とした「育児ごっこ遊び」を行うことで母性を育み、人間関係を構築する基礎的な社会体験となると考え本研究を実施した。本物に近い物品を使用しての他人との関わり体験を計画的に設定し、体験する機会をふやしていくことは、子どもの生きる力を養う上で効果があると考えられた。

本研究の目的は、赤ちゃん人形を、人間関係を育む教育に導入しその効果を科学的に分析検討し、それにより、人間関係の構築については「生きる力」の育成の方法を考察することである。

調査方法は、国分寺市立第10小学校におけるサマースクール（夏休み始めに学校内で先生が提供する講座に子どもたちが自分の体験したい講座に登録して参加をし、いろいろな技術や体験をする講座）で「赤ちゃんをお風呂にいれよう」と題した講座内での子どもたちの様子をビデオカメラで記録をした。参加者は、1年生～6年生までの児童、男子1名、女子18名であった。参加者を4班に分け、班ごとに大学生を1～2名配置した。子どもたちには、お父さん役お母さん役などあらかじめ家族設定をして（順番で役は交代する）、自由に人形および玩具で遊んでもらった。大学生は見守りに徹し、子どもたちの遊び行動の方向性および安全性についての補助をした。録画したビデオを文字に起こし、子どもたちの行動と言動について分析を行った。

分析の結果として、赤ちゃん人形を中心に協調性を持って他人と関われる子ども、赤ちゃん人形を独占する子ども、赤ちゃん人形に対して悪ふざけをするなど攻撃的な態度をとる子どもの3タイプに分けられた。

協調性のある子どもは、子どもたちとの間で順番を決め、赤ちゃん人形を沐浴させたり抱っこをしたりし、「かわいい」などの発言もあった。また、「赤ちゃんは何を食べるだろう?」「栄養のなるものもいいよね。」など自分たちでわかる範囲で赤ちゃんの世話している様子が見られた。沐浴の際には、「弟をお風呂に入れたことがないから、始めて・・・」「うちのお父さんが、私が小さいころお風呂に入れてくれた。」など自分の家庭の様子を語ることもあった。反面、独占的な態度をとる子どもは、赤ちゃん人形を一人で独占し遊ぶ傾向がみられた。また、予想しなかったタイプとして、赤ちゃん人形に対して、口に箸を入れたり、心臓マッサージといって人形の胸を強く押したりなどの行為が見られた。

今回の研究では、家族設定をし、自分の役割を決めたのみで自由に遊ぶという方法をとったため、さまざまな子どもたちの様子が見られた。現代の子どもは、他人と関わり合って遊ぶということが少ないと言われているものの、設定をきちんと受け止めて協調性を持って遊ぶことや、父親や弟など家族での経験を目の前の行為とシンクロさせて考えられる子がおり、「ごっこ遊び」をする中で少なからずも社会的な生きる力を発揮することがわかった。反面、赤ちゃん人形を攻撃するような態度を示した児童もいるなど、赤ちゃん人形と遊びたいという子どもたちが集まるため、赤ちゃん人形を可愛がるであろうという予測をしていたが、そうではない結果も明らかとなった。今回は、児童が1グループに3～4人の設定であったこと、児童の家族背景などを関連させていないため、今後はグループの構成や児童の背景も関連づける必要がある。

人間関係を構築し「生きる力」を育むために「ごっこ遊び」がどのように関連するか、また、教育の中で活用していく方法をさらに模索して行きたいと考えている。

研究成果発表方法

[発表論文名（口頭発表を含む）、氏名、学会誌等名（投稿中・投稿予定・執筆中）を記入する。]

※本経費を用いて、報告書（冊子等）を作成した場合には、本様式とともに1部を提出すること。
なお、提出された報告書は教育実践研究推進本部を通じて附属図書館へ寄贈する。

H 2 5 年度母性衛生学会にて発表する予定である。